

第三回目 笑察カフェ 2025 年 7 月 12 日 (土) 14:00~16:00

於：土山珈琲（特別養護老人ホーム豊壽園内）

テーマ「きく」

佐甲隆氏よりコメント

「きく」というのは、一方的ではなく双方向的で、皆さんは「傾聴する」なんて、十分に分かっておられると思います。

「きく」とは結局はコミュニケーションのことなんじゃないかな。

コミュニケーションの「きく」を仕事の中で置き換えて、振り返って（省察する）もらおうかなと思います。

そこで、今日は、まずは体験してもらおうと思います。ペアになってする肩もみです。

①まず 30 秒間、何も言わずに一切コミュニケーションをせず（ノンコミュニケーション）に、肩もみをする。

沈黙の雰囲気を感じ取っていただきたい

②次は徹底的にコミュニケーションをしながら、「ここが痛い？」とか「どう？」とか言いながら、肩もみしてください。

③せっかくの機会ですから、交替してみてください

まずは、ノンコミュニケーションで 30 秒間（沈黙）

次はコミュニケーションして 30 秒間（にぎやか）



コミュニケーションのあるなしでこんなに違うことを体でわかってくれました。

コミュニケーションをしていないと、患者さんや利用者さんにでも良かれと思ってやっていることが、良からぬ方向になってしまうことがある。でもコミュニケーションさえしていれば、そういうことはないということです。

（笑察カフェの実践 1 時間）



私自身も今日も学びになりました。

モヤモヤしていたものがまとまってきた感じ。

私も医者をやってきたのですが、患者さんの話をずっと聞いてきて、本当に聞いていたのかというとそうではなかったと振り返るんだけど。

まあ、無理をせずに、はい、「きく」とは相手の言葉を理解するのではなくて、相手“気持ち”を理解するということなのかなと。言葉というのはすごく難しく、自分が喋っていても「こんなこと自分は言うつもりなかったんだけどな」ということもあって、だから相手も同じなわけで、言っていることと違ったことを相手が思っているか可能性は十分にあるわけで、言葉は難しい。

そういうものだということを認識しておくことが大切。

大谷喜久 私のきく

・コミュニケーションは量か？質か？という話

私が勤務する社会福祉協議会の窓口には、地域住民、相談者、地域の民生委員児童委員などたくさんの方が来られる。先日、来所された方から「社協の窓口はなんでも話しがしやすい」ということを言われた。職員全員に徹底できているとは思わないが、私の所属部署ではとにかく話を聞くことを大切にしているので、大変うれしい一言をいただいた。



先日、民生委員さんが地域のひとり暮らし高齢者の相談に来られた帰りに、趣味の落語を窓口で一席披露た。こんなお話。

「いつもお世話になっている社会福祉協議会の皆さんには、いつかお礼がしたいと思っていたのですが、今日は、これまでの感謝の気持ちを込めて海外旅行をプレゼントしようと準備してきました。」

ごそごそとカバンの中から真新しい真っ白な靴下を出す民生委員さん。

「あった、あった、プレゼントはこれです。西洋の旅（足袋）。おあとがよろしいようで。」

一同、少し間をおいてから意味が分かり、笑い。

この話はほんの一例ですが、来所された方の話をお聞きして、コミュニケーションが深まってくると、いろいろなお話を聞かせていただくことができる。人となりもわかってくる。襟元を開いて話をして下さる。

社会福祉協議会の大先輩の相談員が「聴くが効く」という言葉を座右の銘にされていた。

どんな苦しい相談に対しても相談者のお話を聴いて聴いて聴くことが効いてくる。聴くことの大切さ、聴くことの効用を表す言葉だと思う。コミュニケーションは量かが大事か、質が大事かと聞かれると、私はまず量が大事だと考えていて、お話を聴くこと、対話を重ねることでよりよい人間関係が作れると考えている。「きく」は人間関係構築の入り口だと考えている。